厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）

分担研究報告書

分担研究課題名：若年乳がん患者のサバイバーシップ向上を志向した妊孕性温存に関する心理支援体制の構築

研究分担者：埼玉県立がんセンター　乳腺外科部長　松本　広志

研究要旨

若年乳がん患者のサバイバーシップに非常に重要な妊娠・出産に焦点をあて、がん告知時の妊孕性温存の情報提供と意思決定する場合の心理支援を開発、多施設共同臨床試験を実施した。また、心理支援体制の構築に向けてのセミナーなどの養成事業を行った。研究分担者として、研究実施計画立案の補助、データ収集、成果発表を行った。

A．研究目的

若年乳がん患者のサバイバーシップに重要な将来の妊娠・出産に関して、がん・生殖医療における効果的な心理支援を明らかにし、全国のがん・生殖医療に普及することを目指す。

B．研究方法

若年乳がん患者のがん告知時期の妊孕性温存に関する心理教育プログラムである O!PEACE によって多施設合同臨床試験を実施し、①夫婦それぞれの精神的健康、②夫婦それぞれの精神的回復力のある思考や行動への変容、③夫婦間のコミュニケーションの 3 軸に対する改善効果の評価があるかどうかについて、通常治療と比較検討する。遠隔転移のない乳がん初発で 39 歳以下の既婚女性とその配偶者を対象として、無作為化比較対照試験を行う。

- 介入群（A コース）（対面式心理サポート 2 回）：O!PEACE 冊子教材を対面式で 2 回（がん治療前 2 回）実施に割り当てられた群
- 統制群（B コース）（通常診療群）：通常診療としてがん・生殖医療に関するパンフレットが配布されるだけで、その他の介入は一切なく、介入群と同じタイミングでアンケートのみ 2 回回答するという方式に割り当てられた群

C．研究結果

O!PEACE による多施設共同臨床試験を実施し、中間解析で患者の QOL の改善と夫の精神的健康の改善効果を確認した。

D．考察

若年性乳がんの妊孕性温存に関する心理支援はがん治療医と生殖専門医が共有する概念を内包する医療連携システムの中核となりうると考えられ、本試験の継続により有効な支援システムの確立が期待できる。

E．結論

妊孕性温存に関する心理支援体制の構築は、若年性乳がん患者の精神的健康の改善

に貢献し、がん・生殖医療連携を推進させる連携モデルの確立や心理士の養成に有効である。

Ｆ．健康危険情報
（分担研究報告書には記入せずに、総括研究報告書にまとめて記入）

Ｇ．研究発表
1．論文発表

2．学会発表

Ｈ．知的財産権の出願・登録状況
（予定を含む。）
１．特許取得
なし

２．実用新案
なし

３．その他
なし